

志原海岸



④志原海岸全景と波食棚

志原海岸は、いろいろな成り立ちをもつ地形や地層が見られる岩石海岸です。手前の平らな磯は、志原の千畳敷（波食棚）と言われています。

⑤鳥の洞窟（海食洞）

割れ目に沿って風化・侵食されてできた洞窟で、数多くある中で一番大きなものは、高さ10m、奥行き30mあります。



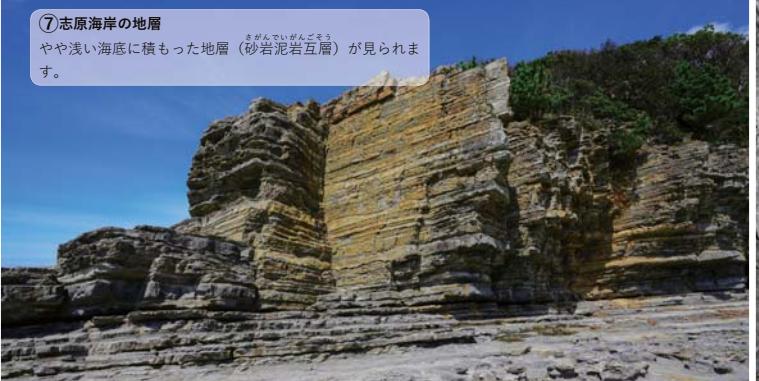
⑥海岸段丘と海食崖

磯より一段高いところにある平らな地形が海岸段丘で、切り立った崖が海食崖です。



⑦志原海岸の地層

やや浅い海底に積もった地層（砂岩泥岩互層）が見られます。



~Hikigawa Map~ 日置川の地図



日置川流域



⑨田野井現河道・旧河道と環流丘陵

旧河道は水田地帯で、中央の小高い丘（中山）である環流丘陵は中世の中山城跡です。

ここで寸断され、流れが変わった。

旧河道



⑩安居穿入蛇行とポイントバー

穿入蛇行がよく発達し、地形が広く平らになっているポイントバーが形成されています。一部が隆起して河岸段丘になっています。



⑪向平穿入蛇行と⑬安居暗渠

向平では著しく穿入蛇行が発達しています。その蛇行のくびれている所が安居暗渠です。

安居暗渠



⑫市鹿野現河道・旧河道と環流丘陵

旧河道は水田地帯で、中央の小高い丘（中山）は規模の大きな環流丘陵です。斜面には茶畠（川添茶）があります。

ここで寸断され、流れが変わった。

現河道
日置川

旧河道

ひきがわ大地の成り立ち

志原海岸は、新第三紀のはじめごろ(今から約1,800万～1,600万年前)、やや浅い海底に堆積した地層(田辺層群)からできています。志原海岸には砂岩泥岩互層が分布します。これらの地層には生痕化石もたくさん見られます。波食棚や海食崖、海岸段丘がよく発達する岩石海岸です。

日置川流域は、古第三紀(今から数千万年前)の牟婁層群とこれを不整合で覆う田辺層群(今から約1,800万～1,600万年前)からなります。牟婁層群は、海溝のような深い海底に堆積した砂岩や泥岩、砂岩泥岩互層になります。八草ノ滝や三ヶ川などでは、不整合を見るることができます。

河口には、日置大浜や通称中芝と呼ばれる大きな中州があり、中芝は畑として耕作されています。その一角には甲虫ヨドシロヘリハニミョウの生息地があります。

上流は、穿入蛇行がよく発達し、大きく曲がりくねって流れています。田野井や市鹿野では、蛇行が切断されて小高い丘、環流丘陵が形成されています。環流丘陵を取り囲む旧河道は水田や田畠に適しているため、集落が作られています。

このように自然の中で、昔も今も大地の恵みを受けながら私たちは大地と共存しています。



⑬安居洞

⑭八草の滝



⑮市鹿野の茶畠

⑯ヨドシロヘリハニミョウ

市鹿野では約4ヘクタールの茶畠があり、恵まれた立地条件により良質のお茶(川添茶)ができます。これらは主に静岡方面に出荷されています。

県の天然記念物に指定され、国の絶滅危惧II類にもなっています。



安宅氏城館跡（国史跡指定範囲）

日置川流域は、中世時代の熊野水軍領主として活躍した安宅氏が支配する地で、河口から上流約5km以内に7ヵ所の城を構築しています。又、海上交通を支配し、造船や木材・備前焼などの流通に関わり、大きな富を蓄積していたようです。



②日置川河口と中州



八幡山城跡の岩盤掘切

< 紀勢道 日置川IC (大古) からの距離と時間 >

地名	距離	時間
(日置川下流)		
田野井	3.0km	4分
中州	1.0km	2分
日置	2.0km	3分
道の駅 志原海岸	2.7km	4分
(日置川上流)		
安宅橋	0.8km	1分
紀伊日置駅	1.5km	2分

地名	距離	時間
田野井	3.0km	4分
安宅	7.5km	10分
向平	12.1km	19分
久木	12.2km	16分
八草ノ滝	13.3km	18分
宇津木	16.1km	22分
玉伝	18.5km	26分
市鹿野	24.5km	37分

発行: ひきがわ歴史クラブ (令和2年3月発行)

お問い合わせ: 日置川拠点公民館 (日置川教育事務所)

☎ 0739 (52) 2660



ひきがわ 大地の歴史マップ



①鳥毛の洞窟

③大向から志原海岸の夕日